

大阪府立 鳳 高等学校

観点別学習状況の評価プロジェクトチーム

令和2年度 研究のまとめ

(国・社の研究のまとめ / 2学期の各教科の試行)

目次

I	国語科 A 教諭の取組み	・・・ 2
II	公民科 B 教諭の取組み	・・・ 4
III	学習活動・評価の試行(国・理・体・英)	・・・ 10
IV	定期考査の観点別分析(数・理・英)	・・・ 17
V	中学校訪問	
	V-1 堺市立中学校(国・社・数・理・英)	・・・ 18
	V-2 和泉市立中学校(数)	・・・ 20
VI	令和3年度の取組みの予定	・・・ 29

I 国語科 A 教諭の取組み

◆研究授業の概要

1年6組国語総合(現代文)での実施。

教材：小説『城の崎にて』

目標：登場人物の状況や心情と他の作品のそれとを比べ、考えを深める。

◆「思考・判断・表現」の評価

(1) 評価方法

ワークシート(「なぜ『自分』は死について考えを巡らせたのか?」)

(2) 評価基準

①当初の評価基準

A	B	C
・300字以上書くことができている。 ・対比比較の構文を使っている。 ・「自分」が死を可能性として感じている点と正岡子規が死を現実のものとして捉えている点への指摘ができており、論理的な帰結になっている。	・300字以上書くことができている。 ・対比比較の構文を使っていない。 ・「自分」が死を可能性として感じている点と正岡子規が死を現実のものとして捉えている点への指摘ができており、論理的な帰結になっている。	300字以上書くことができていない。

【問題点】

- ・目標と評価規準が合っていない。→評価のための評価になってしまう。
- ・AとCの評価をつけられる生徒が多い。

②新しく作成した評価基準

A	B	C
「自分」と正岡子規の状況の対比ができている。 「自分」が死について考えを巡らせた理由を複数考えられている。	「自分」と正岡子規の状況の対比ができている。 「自分」が死について考えを巡らせた理由を1つ考えられている。	Bの基準を満たしていない。

結果

A…5% B…92% C…3%

◆「主体的に学習に取り組む態度」の評価

(1) 評価方法

振り返りシート

(2) 評価基準

A	B	C
単元の学習を終えて、気づいたことや学んだことを具体的に書くことができる。	単元の学習を終えて、気づいたことや学んだことを書くことができる。	Bの基準を満たしていない。

結果

A…27% B…70% C…3%

【問題点】

基準が明確でないため、担当者の主観に委ねられる。

Ⅱ 公民科 B 教諭の取組み

◆研究授業の概要

(1) 単元目標

- ・ 現代社会の諸問題について、他者と協力しながら多面的・多角的に考察するとともに、先哲の思想を用いて、自らの考えを深め、論理的に表現する。(思考・判断・表現)
- ・ 正義・公正・幸福に関わる現代社会の諸問題について関心をもち、意欲的に取組み、理解を深めようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 研究授業の内容

現代社会の諸問題「エンハンスメント」について取り上げ、グループワークを行なった。
グループで協議・発表し、それらをふまえて自分の考えを論述し、提出させた。

☆☆今日のテーマ☆☆

「正義」ってなんだろう??

～エンハンスメント問題を例に考えよう～

◇現代社会の諸問題

◆(1 エンハンスメント)

: 健康の維持や回復に必要とされる以上に、人間の形態や機能を改善することをめざした介入 → (2 人間改良)



病気	正常(健康)	「より優れた」能力・資質
→	→	→
病気に対する治療	状態の改善と維持	能力増強
一般的な医学・リハビリ		エンハンスメント

◆エンハンスメントの具体例

- ・ 身体的エンハンスメント 例: 美容整形、筋肉増強、トレーニング
- ・ 知的エンハンスメント 例: 集中力・記憶力の向上、予備校教育
- ・ (3 遺伝子) 操作 例: デザイナー・ベイビー、クローン
- ・ (4 出生前診断): 胎児の状態(先天的疾患の有無・性別)を分娩前に調べる検査



などなど…

医療行為に限らず、さまざまな行為がエンハンスメントの一種と考えられる

◆「思考・判断・表現」の評価結果

(1) 評価方法

ワークシートの論述内容を評価基準にそって評価する。

問「エンハンスメントの使用条件について、あなたの結論と理由・根拠をまとめる」

(2) 評価基準

A	B	C
<p>①さまざまな先哲の思想（2人以上の思想）をもとに、考えることができる</p> <p>②結論に対する理由や根拠を、キーワードを5つ以上用いて、論理的かつ明確に表現することができる</p> <p>③自分の意見に対する批判も考え、それに答えることができる</p> <p>④他者(他のグループ)の意見について触れられている</p>	<p>⑤先哲の思想（1人のみ）をもとに、考えることができる。</p> <p>⑥結論に対する理由や根拠を、キーワードを用いて、論理的かつ明確に表現することができる</p>	<p>⑤⑥を満たせていない。</p>

変更点 ④の条件を変更した。 変更前(研究授業)「自分の意見を他者と共有することができる」
→ 曖昧な表現で、読み取ることが難しい。

(3) 評価結果

A：4名 B：4名 C：3名(未提出)

(4) 分析・感想

- ・ 初めから変更後の評価基準を提示していれば、B 評価の生徒が A 評価の文章を書けていたと思う。
- ・ A 評価の生徒が多かったことから、生徒の現状に対して難易度が易しかった？
「A 評価基準」「ワークの内容」の2点を見直す必要がある。
→ 評価基準自体に問題ないと考え、これ以上の評価内容を考えることができなかった。
よって、ワークの内容を見直す必要があるのではないか。

◆「主体的に学習に取り組む態度」の評価

(1) 評価方法

ワークシート（単元の振り返り）

「今後の学習に生かしたいこと・これからも考えたいこと・疑問に思ったこと」

(2) 評価基準

A	B
単元の学習を振り返って、今後の学習に生かそうとすることを、具体的に見出している。	単元の学習を振り返って、今後の学習に生かそうとすることを見出している。

(3) 評価結果

A：0名 B：8名 C：2名（未提出） ?：1名（記述のみで評価するとB～C）

ある程度書いているが、今後のことについて具体的に書くことができていない。

(4) 分析

・評価基準を生徒に提示していれば、A評価の生徒が増えたと思う。

・今回のワークシートのみでは評価ができない。

→ 短期間であったため評価ができない。もっと時間をかけて評価する方が良い

（大単元を通して・学期を通して…など）。単発で評価するのは厳しい。

単元の終わりの1回だけでなく、単元途中で数回に分けて評価する方が適切？

→ 「授業の振り返り」にこだわらず、他の方法も考える必要がある。

授業内で評価するのではなく、課題で評価している実践例もある。

→ 「何か書かせたら評価できる」ものではない。

評価結果「？」の生徒は、課題提出以外の場面で積極性が見られた。

◆第4考査について

受験者 16名 (T11名 U5名) 平均点 72.8点 (T 70.5点 U 74.6点)

(1) 観点について

各観点の基準を「暗記したものをそのまま使う問題」は知識・技能
「暗記したものを使って考える問題」は思考・判断・表現 とし、分類した。

(2) 配点・正答率

	知・技	正答率	思・判・表	正答率
I	4点	96.9%	5点	82.5%
II	10点	68.8%	16点	75.0%
III	4点	78.1%	7点	51.8%
IV	25点	55.3%	9点	85.4%
V	0点		20点	83.1%
計	43点	64.4%	57点	77.3%

過去の思・判・表の配点：第2考査 20点 第3考査 17点

(3) 分析

- ・記述の配点を高めに設定している (II 計8点 V 計20点) が、よく書けていた。
- ・「知識・技能」に分類した問題は、空欄補充(記述)が多かったため、正答率が少し低めに出ていると考えられる。
- ・IIIの「思考・判断・表現」はすべて選択問題であるが、正答率が悪い。
→ 資料読み取り、学習内容と関連付けて解く問題だった。
- ・第2～3考査に比べると、読解問題が増えた。(問題用紙が1ページ分増加)
- ・採点が大変だった。
→ 観点別に計算するのに時間がかかった。
しかし、慣れたらそれほど手間ではなさそう。問題作成時に工夫すれば楽になると思う。
→ Vの記述は解答が複数であるため、採点に時間がかかった。

(4) 考查問題 抜粋

〈選択問題〉

(知識・技能) デカルトの言葉として、適当な組み合わせを、一つ選べ。

- ① 「コギト・エルゴ・スム」 - 「私は何を知るか」
- ② 「コギト・エルゴ・スム」 - 「私は考える、それゆえに私はある」
- ③ 「ク・セ・ジュ？」 - 「私は何を知るか」
- ④ 「ク・セ・ジュ？」 - 「私は考える、それゆえに私はある」

(思考・判断・表現) 精神に関するデカルトの見解として最も適当なものを、一つ選べ。

- ① 精神は、人間の根源にある欲望を統御する良心であり、教育を通じて社会の規範が内面化されたものである。
- ② 精神は、誠実なる神によって人間に与えられた良識であり、信仰に応じて各人に配分されているものである。
- ③ 精神は、思考を属性とする実体であり、延長を属性とする物体である身体から明確に区別されるものである。
- ④ 精神は、客観的な真理を追究しようとする高邁の心であり、情念との関わりをもたずに存在するものである。

〈Ⅲの資料問題〉 (思考・判断・表現)

生徒Rと生徒Nは、以下の資料Ⅰの内容と解説から、社会契約説との類似点に気づきました。

資料Ⅰ 解説と思想が最も類似している人物、その人物の思想、資料を、それぞれ一つずつ選べ。

資料Ⅰ

自然の人間は、直耕・直織する。平野の田畑に住む人間は穀物を生産し、山里の人間は材木や薪を産出し、海浜の人間は諸種の魚類を産物とし、薪材・魚塩・米穀をたがいに交換することができるから、海浜、山里、平野の人倫はみないずれも、薪と飯と菜の需要をまかなうのに不自由することなく、食と衣を安んじることができるのである。直耕の営業には、欲がなく、上下がなく、尊卑がなく、貧富がなく、聖愚がなく、盗みがないから刑罰もなく、貪ることがなく、知識も説法もなく、争乱もなく、歓楽もなければ苦もなく、色情もなければ軍戦もないという無事平安の世である。

解説

資料Ⅰは、安藤昌益の「理想の社会(自然世)」について書かれた資料である。

彼は、「自然世」への復帰を理想とし、江戸時代の社会は人為的な法律や制度により、上下の身分が決められ、支配者が自ら耕さず、収穫物を搾取する社会であると批判した。

〈人物〉 ①ホッブズ ②ロック ③ルソー

〈人物の思想〉

- ① 法が成り立つ以前の状態は、法的に有効な判断を下す裁判官が存在しないため、権利をめぐる争いが生じた場合訴訟も起こせないから、それは言わば無法状態であって、所有権も単に暫定的に保障されなかった。(省略)

〈資料〉

- ① …立法部が、社会のこの基本的な規則に違反し、野心や恐怖や愚かさや墮落によって人民の生命、自由、資産に対する絶対的な権力を自ら握ろうとしたり、(中略)する場合にはいつでも、立法部はこの信託違反によって、人民が全く異なった目的のために立法部の手を置いた権力を喪失し、人民にその権力が復帰することになる。(中略)人民は、彼らの根源的な自由を回復する権利をもち、新たな立法部を設置することによって、彼らが社会のうちに身を置く目的である自分自身の安全と保護とに備える権利をもつからである。(省略)

≪Vの記述問題≫ (思考・判断・表現)

資料

シェリル・ホップウッドの家は裕福ではなかった。母親に女手一つで育てられた彼女は、働きながら高校、コミュニティカレッジ(公立の二年制大学)、カルフォルニア州立大学サクラメント校を卒業、その後テキサス州へ引っ越し、テキサス大学ロースクールに出願した。同校は州内随一、全米でも指折りのロースクール(法科大学院)だ。GPA(成績評価)は、3.8、入学試験の出来も83%と悪くなかったが、結果は不合格だった。

白人のホップウッドは、自分が不合格になったのは不当だと感じた。合格したアフリカ系アメリカ人やメキシコ系アメリカ人の学生の中には、彼女よりもGPAや入学試験の点数が低い者がいた。テキサス大学ロースクールはアファーマティブ・アクション(積極的差別是正措置)を採用しており、マイノリティの出願者を優遇していたのだ。実際、ホップウッドと同等のGPAを持ち、入試でも同等の成績を収めたマイノリティの学生は全員、合格している。

ホップウッドは訴訟を起こし、差別を受けたと連邦裁判所に申し立てた。これに対して大学は、テキサスの法曹界の人種的・民族的多様性を促進することが、テキサス大学ロースクールの使命の一つだと反論した。

(中略)テキサス大学ロースクールの学長は言う。「あらゆるグループの成員が司法に参加しなければ、このプロセスはさらに困難なものとなるでしょう。」

生徒の意見

生徒A：実際に、ロースクールを卒業して、テキサス州の法曹界で活躍するマイノリティが増えるならいいんじゃないかな。色々な人が法に参加する方が、きっと人種関係なく多くの人にとって良い結果になるよ。(省略)

問1 生徒A～Dの意見は、哲学者の思想に影響を受けている。

生徒A～Dのうち2人選び、それぞれ「誰」の「どのような」思想に影響を受けているのか、考察し説明しなさい。(以下省略)

Ⅲ 学習活動・評価の試行（国・理・体・英）

【国語】 C 教諭

- ・試行 短歌・俳句の鑑賞文

概要：1年生(現代文)の授業内で実施

授業で紹介した短歌や俳句の中から好きなものを1つ選択し、鑑賞文を書く。

目標：短歌・俳句の韻律の響きを味わう。

作品を通じて、多角的に言葉の意味をとらえさせる。

作品の魅力を自分の言葉で表現することができる。

評価基準

A…授業内で説明していない新たな視点(表現効果への気づき等)を含み、
100字以上記述している。

B…授業内容をもとに着目して100字以上書くことができている。

C…100字以下。

【理科】 D 教諭

○学習活動：岩石サイクルに関わる各作用のエネルギー源を考えよう

○試行講座：1年次 地学基礎（2組，5組）

○目標：①岩石サイクルに関わる各作用のエネルギー源について、

その根源となる大きなエネルギー源を説明できる。【思考・判断・表現】

②これまでの単元では“地球内部の熱エネルギー”による現象（固体地球とその変動）を扱ってきたが、次の単元以降では“太陽の熱エネルギー”による現象（大気と海洋）を扱うことを知り、事物・現象を観る視点を切替えることができる。

※②は活動後に解説

○評価規準：岩石サイクルに関わる各作用のエネルギー源について、

その根源となる大きなエネルギー源を説明している。

○授業の展開

(1) 岩石サイクルの説明

山脈／海溝／海嶺／ホットスポットなどを図示して説明

(2) ろうそくを使った演示実験

風化作用：ヤスリで削る／運搬作用：削ったろうがピーカーに落下

／マグマの発生：マッチの火でろうを溶かす／火成作用：水を注いでろうを固める

◎演示実験の各作用のエネルギー源が

授業者のエネルギー（仕事）であることに気付かせる。

※マッチが燃え続けているのは化学変化のエネルギー

(3) 「宇宙や地球で神様のような存在が種々の現象を引き起こしているのではない。」

「実際の岩石サイクルのエネルギー源を考えよう。」

「エネルギー源を考えていくと2つくらいの根源的なエネルギー源に行きつく。」

① 1人で考える

② ペアで考える

③ ②のペアとは異なるペアと考える

④ 1人でまとめる

○観点別評価の判断基準

A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 指導の手立て
岩石サイクルに関わる各作用のエネルギー源について、それらのエネルギーを根源的な大きなエネルギー源に結び付けて整理し、説明することができる。	岩石サイクルに関わる各作用のエネルギー源を説明することができる。	温度変化や水の流れはエネルギーの高い状態から低い状態へ変化していることに気付かせ、「なぜエネルギーの高い状態になったのか」と問いかける。
10名	55名	12名

○評価時に基準としたこと

- “地球内部の熱エネルギー” “太陽の熱エネルギー” の2つを説明できていれば A。
- “マントルの動き” など「マントルの動きはどんなエネルギーによって起きているのか？」と問えるような場合は B とした。

○感想

- クラスによって指導の手立てが異なる

既に実施したクラスでの経験を活かして“発問の仕方”や“机間指導時の声掛け”を改善するため、2回目のクラスの方が生徒の思考がより深まる。学習活動としてはどんどん良くなるが、同様の評価基準で良いのか。

“集団に準拠した評価”ではなく“目標に準拠した評価”であれば良いのか。

もしくは、“記録に残す”ときに教員の指導の手立ての差も考慮して評定に補正を加えるべきなのか。

- ペアの相手による差

グループ活動を取り入れると、ペアの違いによって思考の深まり方などに差が生じてしまう。

- 妥当性を考えるとテスト（試す）に近くなる？

「相談などせず1人で思考して表現する」「他クラスに課題が漏れないようにする」など

【保健体育】 E 教諭

1、対象

3年女子アルティメット選択者 81名

2、方法

Google フォームで回答、Google classroom で配信

「生徒には成績に影響しない、授業内容の向上のために協力してほしい」と説明して実施した。

3、実施日

10月31日、11月16日、11月30日 計3回

4、実施内容

- ① 授業中の工夫、注意点はどこか。
- ② ディスクを遠くに投げる、まっすぐ投げるためにはどうしているか。
- ③ 上手な人の特徴、強いチームの動きはどうなっているか。
- ④ 授業の反省点、感想、次回の意気込みはどうか。

5、実施した感想

- ・成績には影響しないと言ったからか、全員からの回答が得られなかった。
- ・Google フォームと並行して、希望者には紙で答えられるようにしても良かったかもしれない。
- ・今後は管理や見やすさから紙ベースでの実施を予定しているが、Google フォームで行うと生徒が書き込んだ内容を PC に打ち込む手間が省けるので、生徒の意見・感想の一覧として内容をまとめて生徒へのフィードバックをしやすいように感じた。
- ・思考、判断、表現として評価ができそうな回答が多数見られた。ただ、今回は明確に評価基準を決めずにスタートしたので、今後は科内で検討し、共通の評価基準を設定していきたい。

6、思考、判断、表現として評価ができそうな回答

質問：試合中の工夫、注意点

回答①パスを貰う時は出来るだけ空間を見つけて素早く入り込むこと、パスをするときは無茶苦茶に遠く投げるのではなく、目標を定めて確実にパスが通るようにすることに気がつけました。

回答②私たちの班は、スピードを重視しました。ロングパスを積極的に使って、相手が防御の姿勢になる前にゴールを目指してプレーしました。

回答③声を出して連携をとること。早めにゴールラインを超えたところでスタンバイして、相手がまだいけると思っているうちに1回のパスで遠くに飛ばしてもらい、点数を決めること。

質問：上手な人や点をよくとる班の動きはどうなっているのでしょうか？

回答①上手なチームは全体的にロングパスがしっかりと通るなという印象を持ちました。また、ディスクにみんなが集中するのではなく、自分のゴール付近で待機している人もいて、それが攻守交替した時にすぐに点を入れられる秘訣ではないかと思いました。

回答②次はもっとチームの結束力を強めて、勝てたらいいなと思います。最後に試合をしたチームのパス回しがうまくて、それは自分たちのゴール付近で相手の攻撃を阻止しようとするのではなく、積極的に前に進んでいるからだと思いました。ゲームに勝つためにはパス回しが1番大切だと思うので、試合を重ねるごとに上手くなっていきたいです。

質問：反省、感想、次回への意気込み

回答①風が強い日にディスクを上投げると、取る事はほとんど不可能であると気付きました。また、失敗をしてしまうことは良いですが、1度失敗し、不可能だとチームが判断したプレーをわざと何度も何度も繰り返すような事はチームの士気を下げ、みんなのやる気を無くすことに繋がるので良くないと思います。

回答②もうちょっと正確にフリスビーを投げられるようにする。確実にキャッチできるように。今日みたいに相手の投げる位置を予想してパスをカットできればもっといい試合になると思った。

回答③最初の頃は試合で点を決めることが出来なかったけど、だんだんチームの団結力が上がって点を取れるようになって嬉しかった。でも大きいコートになるとまだ点を取る事が難しいので、コートが広くなってもパスを丁寧に繋げたり、パスの距離をながくしたりして対応する必要があったと思いました。

【外国語】 F 教諭

1.対象：1年2組(男子10名、女子10名 計20名)

2.教材：FLEX English Communication I

Lesson4 Malala:Fighting for Women's Rights (pp.55 - 63)

3.本時の目標：

- (1) Malala についてグループで整理した内容を英語で発表をすること。
- (2) 生徒が紙芝居に書かれたキーフレーズだけで英文を復元できるようにすること。
- (3) 生徒が情報・時間・態度・英語の4つの観点で発表を評価できること。

4.指導手順

活動 (時間)	教師の指導	生徒の活動
【導入】 (2)	1.挨拶、点呼 2.生徒の授業準備ができているか確認	1.挨拶 2.準備物の確認
【発表前 最終調整】 (5)	1.グループ毎に着席させる 2.発表に向けて最終調整をするよう指示 3.評価シートの配布、評価方法の指示	1.グループで発表内容について最終確認 2.発表の順番決め
【発表1巡目】 (15)	1.発表・移動がしやすいよう座席の配置変え 2.発表時間2分を計測 3.評価シートの記入指示 4.ローテーションの指示 5.グループで再調整を指示	1.発表者と評価者は向かい合わせで2人ずつ着席する。発表者は外側、評価者は内側へ着席させる。 2.発表者2人は紙芝居を4枚持って、2分以内にキーフレーズだけを見て英文を復元する。 評価者2人は発表を聞いて、4つの観点で発表を評価する。 3.評価シートに5点～1点を記入する

		4.隣のグループへ移動する 5.実際に発表を終えた二人から、次の発表者へ1分で内容の引継ぎ
【発表2巡目】 (15)	1.2巡目の指示。発表者と評価者の立場を入れ替える	1.発表・評価の立場を変えて1巡目と同様に発表を実施
【振り返り】 (5)	1.評価シートに自身のプレゼンについて振り返りを記入させる	1.評価シートと紙芝居の提出
【まとめ】 (3)	1.講評	1.必要に応じてメモを取る

5.評価基準：思考力・判断力・表現力について、以下の基準で評価する

A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
紙芝居に書かれたキーフレーズだけを見て、内容を英語で表現できる。	自分やパートナーが作ったスクリプトを時折見ながら、内容を英語で表現できる。	自分やパートナーが作ったスクリプトを見て、内容を英語で表現している。

○上記の基準で採点した場合「A：5名 B：11名 C：4名」という内訳となった、生徒たちは同じ事を相手を変えて数回繰り返すため徐々に活動に慣れ、評価がC→Bになったり、B→Aになるものもいた。

○グループのメンバー、パートナーによって評価が大きく左右されるため、評価基準がこれで良いかどうか検討したい。

Ⅳ 定期考査の観点別分析（数・理・英）

【数学】 G 教諭

○対象講座：2年次 数学Ⅱ（1～8組320名）

考査	満点	知・技	思・判・表
第4考査	100点	51点分	49点分

- ・学習指導要領を元に配点をした。

【理科】 D 教諭

○対象講座：3年次 物理（4578組75名）

考査	満点	正答率	知・技	正答率	思・判・表	正答率
第3考査	100点	42%	75点分	50%	25点分	23%
第4考査	100点	42%	63点分	54%	37点分	21%

- ・『思・判・表』はかなり広く取った
- ・『思・判・表』の正答率は『知・技』の半分以下
- ・無答率は算出していないが、『思・判・表』の方が高い
- ・毎年同じ分野で別の問題はかなり大変だが、同じ問題だと過去問で対策されてしまう？

【外国語】 F 教諭

英語Ⅰの第4考査をもとに自己分析

対象：1年2,3,7組 出席番号1-20（計60名）

考査	満点	正答率	知・技	正答率	思・判・表	正答率
第4考査	100点	64%	56点分	64%	44点分	63%

○思考・判断・表現力を大分甘め(?)に見積もると44点分となっていた。基準を毎回出題している Summary や自由英作の10点分に絞ると50%程度に下がる。

○中学校訪問では思考・判断・表現の問題は正答率が非常に低いと仰っていた。

V 中学校訪問

V-1 堺市立中学校（国・社・数・理・英）

【国語】A 教諭・C 教諭

<C教諭>

3年生。『万葉』『古今』『新古今』の和歌の中から好きなものを選び、自分が作者となって歌を紹介する…という授業。授業後、ワークシートを回収。このワークシートをもとに評価。

・単元の評価規準

「思考・判断・表現」…文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ)

・本時の評価（思考・判断・表現）について

A と判断する状況	B と判断する状況
和歌についての心情や情景をとらえ、表れているものの見方や考え方について、自分の考えも含め書けている。	和歌についての心情や情景をとらえ、表れているものの見方や考え方について書けている。

- ・色々な活動をさせるけれども、それを評価せざるを得ないなら、観点を「焦点化」して対応するしかない。
- ・厳密な評価基準を作ろうとすればするほど、画一的で面白みのないものになる。

<A教諭>

感想

評価に関しては成果物の出来を見てから決めるようであった。

指導案に書かれている評価規準は大まかなものだったので、担当者ごとに意見が割れる可能性は高いと感じた。生徒は課題に関して主体的に取り組んでおり、講義型の授業と個別学習を取り入れた授業を単元の中で上手く使い分けられているように感じた。

【地歴公民】B 教諭

1. 今回見学した授業の概要

≪単元をつらぬく問い≫ 明治維新とは何だったのか

≪本時の内容≫

発問①「富国強兵を実現するために何が必要か」→自分で考えたあと、周りと共有し発表
ワーク「教科書で調べる（穴埋め作業）」

発問②「富国強兵を実現するために、なぜ“学制”が必要だったのか」

→自分で考えたあと、周りと共有し発表

発問③「富国強兵における“学制”の意義について、資料（江戸時代の寺子屋と明治時代の小学校、富岡製紙場）から読み取り、意見をまとめる」

→自分で考えたあと、周りと共有し発表、再度意見をまとめる

ふりかえり「今日の授業でわかったこと・感想を書く」

終了後、プリント回収。今回の授業では、「発問③」の記述で「思・判・表」を評価する。

A「富国強兵における学制の意義について、多面的・多角的に考察し、経済・軍事的な側面からとらえている。」

B「富国強兵における学制の意義について多面的・多角的に考察し、自分の考えを記入している。」

「発問③」の記述内容から読み取れるかどうかで評価

≪感想≫

- ・「教員が教える」のではなく、「生徒の発言を拾い、共有する」役割であった。
- ・教員が話している時間はほとんどなかったように思う。
- ・子どもが関心を持つであろう部分を、スライドに用意し、モニターに映していた。子どもの反応をよく考えて授業準備されているのが伝わった。
- ・全体的に子どもは意欲的に取り組んでいたが、発表や活動をする子としない子の偏りがあるように感じた。

2. 研究協議

≪授業について≫

- ・1時間講義型の授業をやっていない。
- ・「考える」→「共有する」→「発表する」→「深める」スタイルで進めている。
- ・ワークは毎回している。

【数学】H 教諭

研究協議で話題に上がった内容

(1) 評価の準備

■ 普段の授業の中でどのように評価を行っているか？

⇒ 「指導に生かす評価」は毎時間行う必要がありますが、「記録に残す評価」は、毎時間すべての生徒に対して3つの観点すべてについて、評価のための情報を収集する必要はなく、現実的ではない。そのため、主に努力を要する生徒を確認し、その後の「指導に生かす機会」と、学級全員の生徒の評価を「総括の資料にする機会」とに区別することが大切である。

総括の資料としては、主に小テスト、レポート、ノートなどがある。

■ 評価材料について

⇒ 現在はテストで評価する部分が多い。「関心・意欲・態度」についてはプリントやワークの記入状況に頼る部分が多い。

(2) 評価の方法

■ 評価の方法について

⇒ 原則として4つの観点を点数化して、1：1：1：1で算出している。

各観点がAをもらえるのは75%以上の到達度の生徒。

総合で90%以上の評価を得た生徒は評定5となる。

「AAAA」は評定「5」または「4」、Bが1つでもあると評定「5」にはならないなど堺市で定められたルールがある。

■ 観点のウエイトは？

⇒ 年間トータルでは均等にするが、各単元や考査間ではばらつきがある。

計算メインの単元は「知識・理解」を多め、証明の単元で「見方・考え方」を多めに評価するなど。

(3) その他

■ 中学校では生徒たちが観点別の評価をどのようにとらえているか？

⇒ 子どもたちは「5段階」に注目しており、観点別にはあまり興味がなさそう。

「私は何で3なの？」と聞かれることはあるが、「何でこの観点はBなの？」と聞かれることは少ない。

【理科】 | 教諭

- 日時・訪問校

2020年12月17日（木）13：00～17：00 堺市立中学校

- 見学した授業

1年4組 理科「地層から読み取る大地の変化」

単元目標（該当時間）

地層の重なりと過去の様子に関する事象・現象の中に問題を見出し、扇状地と三角州の堆積物の違いについて、自らの考えを導いたりまとめたりして表現できる。

【科学的な思考・表現】

本時の評価（思考・判断・表現）について

ワークシートの記述内容で評価を行う。扇状地と三角州の堆積物の違いを、根拠をもとに記述できていれば A、堆積物の大きさの違いのみの記述は B とする。

● 研究協議・感想

- ※ まず、ICT 機器について、指導者用タブレット・電子黒板が設置されており、ほとんどの教員が扱いに慣れているとのことで、ICT 教材を活用した効率的な授業展開が工夫されていた。デジタル教科書の使用および実験動画を見せるなどの工夫により、実験や観察の準備や手間など大幅にカットすることにつながり、何よりも生徒たちが板書を写すという作業だけでなく、視覚的にとらえる時間が増え、集中している生徒も多くみられた。

- ※ 授業内で数多くの質問を投げかけることで、生徒たちの反応をうかがう機会を増やす工夫をされていた。生徒たちの意見に対し、正解・不正解の指摘はせず、いろいろな考えやアイデアを積極的に表現できるような空気づくりが見られた。また、ペアワークを一部取り入れることで、扇状地と三角州の違いを表現・説明する機会を与え、他の生徒の意見も聞きながら考えをまとめる時間も工夫されていた。

- ※ 今回の授業では、【科学的な思考・表現】に重点を置いた授業展開であったため、その目標に向けた取組みについて重点的に見学できたが、それに対する数値的な評価は非常に難しいと感じた。ワークシートの記述内容で評価とあったが、全クラス 200 人分のチェックという時間的に厳しい問題もある。記述内容についても大きな差は生まれにくく、1 回のチェックでは評価のバラつきは小さい。その点についても、生徒一人ひとりに対する数値的評価の難点解決は課題である。

- ※ 記述内容によっては、友人とともに考察した場合、ほぼ同じ記述になっていてもおかしくはないため、ワークシートの記述は、本当に科学的な思考や表現が身についたのかを判断する成果物として弱いものではないかとも思うが、逆にそれを確実に評価できるような成果物の設定も難しい。その意味でも、全生徒をフラットに評価するには、結果的に定期考査の正答率等が重要な意味をもってしまい、普段の授業内での評価も重視しようという趣旨に近づけることも難易度が高いと感じた。

- ※ 知識の定着については、定期考査以外にも普段の授業内で振り返りの時間の設定をつくることでうまく解決できそうではあるが、評価方法や他クラスとの進度の調整、うまく定着できていない生徒へのフォロー方法など課題は残る。限られた時間内で、前回の振り返り、本時の目標設定・評価、次回に向けての課題設定など、意識すべき点は多くあるので、その点についても改良が必要である。

【外国語】 F 教諭

1:日時 令和2年12月17日(木) 13時40分～17時00分

2:場所 堺市立中学校

3:見学した授業 1年1組(39名)

- 4:目標
- (1)過去形を用いた文の構造を理解し、英文を書く。
 - (2)イラストを参考にして、ペアと過去形を使った文で会話をする
 - (3)イラストを参考にして、過去形を使った文を書く

5:評価方法 活動の観察、ワークシート

研究協議

〈評価方法等に係る部分についてのみ抜粋〉

- 通知表の5段階評定について。堺市から「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」「言語や文化についての知識・理解」の4観点の評価について、それぞれのA,B,Cの組み合わせによって5段階のどれになるかが決まっている。また、PCのシステムに教員が入力すると「5, 4, 3, 2, 1」が自動的に判別されるソフトが導入されている。これは4月当初に保護者に堺市教育委員会名義で通知している。
- 定期テストでは大問ごとに「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」「言語や文化についての知識・理解」のどの項目に係る問題が明記されている。「外国語表現の能力」の項目について点数が低いことが課題。また、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」以外はほぼ定期テストで評価しているのが現状。振り返りシートを使って差を作ることができるか？また、C評価をつけている生徒をB評価にする事が今後の課題。
- 習熟度別授業について。完全希望制で、どちらでも良いと答えた生徒のみ定期テスト等の点数を見て振り分け。学年によってBasicが少数、Advancedが多数のクラスになる場合もあれば、半々になる事もある。Advancedクラスは評価に含まないが、プラス α の課題等を渡す。Basicクラスはペアワークをする際に配慮が必要。定期テストは同じ内容。

余談：主体的に学習に取り組む態度について

中学校を見学させていただいた際にこの項目だけはどうすればよいか頭を悩ませている、と話しておられた。そこで、たとえば活動後の振り返りシートをもとに点数化してみたらどうなるのかを鳳高校の1年生の授業でやってみた。基準は3つで ①客観的に自分の活動を振り返って反省できている ②次回の活動に対しての課題、意欲が表明できている ③②を実現するための具体的な方策が挙げられている のそれぞれを1点として、採点してみた。3点ならA、2点ならB、1点ならCという具合に。そうすると20名の内訳は A:6名 B:12名 C:2名 となった。

しかしこれだといずれ教員が喜ぶポイントを押さえただけの作文テクニックで終わる気がするので、これらが次回本当に実現できているかも含めて注視していく必要があるのだろうと思った。

【数学】H 教諭

■見学内容の概要

1. 見学日 令和2年11月20日(金)
2. 参加者 教頭、J教諭、H教諭
3. 見学内容

10:45~11:35	3限目授業見学
11:45~12:35	4限目授業見学
13:30~14:20	5限目研究授業
	2年1組 数学
14:40~15:20	研究協議(研究授業振り返り)
15:30~16:30	助言・講演

★3限・4限の授業内容一覧

			学習課題	めあて	子ども同士の考えをつなぐための工夫
1年1組	3限	国語	自分の体験や出来事が当てはまる故事成語を選び、四コマ漫画にして発表する。	故事成語の意味を理解し、自分の体験と結び付けて表現する。	①作業は個々ですが、班で活動する。 ②自分の体験や出来事がどの故事成語に当てはまるか、班の人のアドバイスを受けながら行うようにする。 ③逆に故事成語から、どのような体験や出来事が当てはまるかも互いに考えられるようにする。
	4限	技術	作品(本棚)づくりに向けて、作業手順を正確に理解し、より良い物を作ろうとする。自分のデザイン通りに工夫し、完成させる。	自分の作品を作ろう(形を整える)	・目標を立てる。 ・作業中にわからないことは班で相談するように促す。 ・振り返りを書かせる。 ・グループで作業をさせる。
2年1組	3限	英語	自分のあこがれている人物について「自分もこの人のように生きてみたい」というスピーチの原稿を英文で作成する。	今までに学んだ表現を確認し、相手をひきつける原稿の構想を練る。	・作成したものを共有し、学びを深める。
	4限	社会	江戸時代の後期には、どのような文化が発達し、江戸の人々は暮らしの中でどのような工夫をしていたかをつかむ。	資料をもとに、江戸時代後期の文化の特色や江戸時代の人々の暮らしの工夫について考える。	①ペアで自分の考えを伝える。 ②ペアでの話し合いやワークシートに書いた考えを全体に伝える。 ③考えを共有し合うことで、自分自身の考えを深める。

2年2組	3限	体育	めあての達成に向け、グループで目標と練習内容を決め、実施していく。	①ボールをうまくコントロールし、ゴール前へのドライブや味方にパスができる。 ②空いているスペースに走り込み、パスを受けてゴール前での攻撃ができる。	①グループの話し合い・活動 ②実技書を使いながら、チームノートを共有する活動
	4限	理科	気象要素の観測を行い、天気の変化にどのような関係があるか考える。	気象観測と天気の変化の関係を考える。	観測器具の基本操作について、資料と照らし合わせながら協力して測定する。
3年1組	3限	数学	ダルビッシュ有選手の投球内容を分析し、部分的な分析でどこまでの精度があるのかを確かめ、その結果によって、どのように調査方法を改善できるのかを考えさせる。	標本調査の精度について考えよう。	・全員に別々のデータを配付し、データを共有させ、大きなデータを作る。 ・調査の方法について改善できるような方法を考える。
	4限	英語	外国から中学校に来る人のために、自分自身の学校について紹介する英文を書く。	中学校について紹介する英文を作る。	①学校行事、部活動についての文章を分担して作る。 ②作成したものを共有し、学びを深める。

■研究授業について

(1) 授業クラス：2年1組 数学

(2) 授業内容：平行四辺形の性質を使って、面積を2等分する方法を考える。

1. ワークシートを利用して2等分する線を引いてみる。
2. グループ（4人程度）で意見交換し発表。
3. 証明（次回の予定）に向けての準備 など

(3) 研究協議から

①課題の設定について

- ・「課題の設定」はよかったが、課題内容が子どもに伝わっていない部分があった。課題を考えるための材料（ヒント）にもう少し工夫があってもよかった。

②学習活動で学びをつなぐ場面はどうだったか

- ・「生徒の手が止まったときにどうしていくのか」ということは非常に難しい問題であるが、できるだけ生徒自身に気付かせるような手掛かりを与えられるよう工夫することが大切ではないか。

(4) その他

- 個人で考える場面から、グループで考えを共有する場面につなげる部分を大切にしたい。
- 課題と意見を共有させ、生徒に考える時間をたくさん与えていきたい。
- 導入部分や課題の提示で、「やりたい、わかりたい」という気持ちを持たせることができるか。

■全体を振り返って

今回は、中学校で継続的に行われている「主体的・対話的で深い学びの授業づくりに向けて」の研修に参加させていただく形となった。

今回（今年度）のテーマは、「学び合いで、子どもの考えをどのようにつないでいくか」とのことで、観点別評価がメインテーマではなかった。そのため、観点別評価に対する取組み具体的に見学させていただいたり、評価方法などを伺うことはできなかったが、普段見ることのできない中学校での授業の様子や取組みを知ることができたことは大きな収穫であった。

中学校では、「学び合い」に重点を置いた取組みを行っているが、その中で行われている「グループ学習」や「ワークシートの工夫」などは観点別の評価（特に「主体的に学習に取り組む態度」）を行うにあたって参考になる内容であった。

《MEMO》

VI 令和3年度の実施の予定

<1> 目標

- ① 令和4年度入学生(77期生)の1年次シラバスを全科目で作成する。
- ② 教務内規(特に評価を総括する方法)を改訂する。

<2> 校内の実施

① シラバスの作成	② 教務内規の改訂
<p>○各教科での授業と評価の試行 ※1年対象科目を中心に試行</p>	<p>R3の試行を基にR4シラバスの作成</p>
<p>□ロードマップ(例)</p> <p>①各観点の評価場面の設定 ・定期考査[知][思] ・パフォーマンス課題[思][主] など</p> <p>②観点別学習状況の評価に係る記録</p>	
<p>③学期末に観点別学習状況の評価を総括(A~C) 〔学期末に評定(1~5)に総括 ⇒現行の評点と比較・検証〕</p>	<p>○学期末に観点別学習状況の評価を総括(A~C)する方法</p> <p>○学年末に評定(1~5)を総括する方法</p>
<p>④学年末に観点別学習状況の評価を総括(A~C)</p> <p>⑤学年末に評定(1~5)に総括</p>	<p>⇐内規案で総括の試行</p> <p>⇒試行を検証し、内規案の修正</p>

<3> 令和3年度の計画

各教科の試行		学校・分掌・委員会等の予定	
1 学 期	授業の中でのパフォーマンス課題等 第1 考査 授業の中でのパフォーマンス課題等 第2 考査 1 学期成績算出 A 評点 B 観点別学習状況の評価の総括 + 学期末評定の算出	4月	令和3年度 PT 発足
		5月	【パッケージ研修】 (令和3年度試行について)
		6月	【観点別 PT】 1 学期の試行の中間報告 【教務部】 教務内規改訂案①の作成
		7月	【観点別 PT】 1 学期の試行のまとめ 教務内規改訂案①の検討
		8月	【職員会議】 1 学期の試行の成果報告 教務内規改訂案①の検討

※2学期も1学期と同様に試行と検討を続ける。

※3学期は令和4年度に向けた準備の全体的なまとめを行う。

<4> その他

「パッケージ研修支援」の目的に、「ICT を活用する取組みの支援」が加えられたことを受け、令和3年度は「ICT 活用授業委員会」とも連携しながら授業力向上をめざす。